日奈久地域活性化検討委員会最終報告書

「日奈久まちづくり羅針盤」

―歴史の香り漂うまちづくりに向けて―

近年、日奈久地域を取り巻く環境は、観光客のニーズの変化や近隣町村における近代的な温泉施設の新設など厳しい状況にあり、さらに、温泉街の衰退とともに、日奈久校区の人口も減少し続けています。

日奈久地域活性化検討委員会は、日奈久地域の活性化を図るために実現可能な具体的な方策を見出し、順次、実施に移していくことを目的として設置され、12回にわたる検討を行いました。

◎日奈久の将来ビジョン

日奈久温泉開湯600年（平成21年）や九州新幹線全線開業（平成23年頃）を間近に控え、低迷する日奈久温泉街を中心とする当地域を活性化するためには、地域住民自らが地域のことを考え、それぞれが連携しながらまちづくりを進めていく必要があります。

そのためには、日奈久地域のビジョンやまちづくりの方向性が重要であり、それに対する住民の共通した理解を得ることが、活性化へ向けた取組みの第一歩であると考えます。

委員会では、これまでの検討により「地域住民が、日奈久の歴史を重んじ、守るべきものを守りながら、新しい事業や日奈久地域以外からの人や考え方を積極的に受け入れていかなければならない」との考えに立ち、日奈久地域の将来ビジョンづくりに向けて、「歴史の香り漂うまちづくり」を提案します。

取組みイメージ図

◎日奈久地域活性化事業（案）の目標時期

活性化策として提案された様々なソフト事業およびハード事業の完了目標時期として、日奈久温泉が発見されてから600年の節目を迎える時期（平成21年）や九州新幹線全線開業予定時期（平成23年頃）の事業完了を目指して取り組む必要がある事業を「短期」の事業とし、それ以降の事業完了を目指して取り組む必要がある事業を「中長期」の事業として、取組む目標時期を明確にしています。

◎日奈久地域活性化事業（案）の具体的な取組み

《ハード事業》 ハード事業の実施にあたっては、基本構想および基本設計の策定段階から管理運営方法の検討まで、「事業主体」と「その施設を活用する団体」が、互いに連携を図りながら取り組み、優先すべき事業については、日奈久地域の意向や事業主体の財源確保を考慮して取捨選択する必要があります。

①おれんじ鉄道側道整備（短期）

観光客などが日奈久温泉駅から温泉街へ歩いていく場合、大型車などの交通量が多い国道3号沿いを通らなければならず危険です。

これを解消するため、日奈久温泉駅から県道田上日奈久線の踏切（多々良踏切）までの線路沿い（約240m）を自歩道として整備を図ります。

活用案としては、人力車や馬車などを運行することで、日奈久地域のイメージアップを図り誘客に繋げることができます。

▲整備イメージ：自転車歩行車道

②JA倉庫・織屋一帯の整備（短期）

i）JA倉庫の整備

JA倉庫は、古くは米券倉庫として利用されており、歴史的にも価値があるものです。

今後は、この歴史的価値を守りながら活用方法を明確にしたうえで修復・整備を図っていきます。

活用案としては、展示場、ギャラリー、資料館、物産館、レストラン、多目的ホールなど多くの意見が出されていますが、日奈久地域観光の拠点として、織屋と一体的な利用を行う必要があります。

▲整備イメージ：物産館など
参照（大分県豊後高田市昭和ロマン蔵）

ii）織屋の整備

織屋は、俳人種田山頭火が泊まった宿として、当時のままの姿で残っており、歴史的に貴重なものです。国道3号からの入口の整備も含め、JA倉庫と一体的な保存整備を行い貴重な観光資源として活用を図ります。

活用案としては、種田山頭火に関するギャラリーや「九月は日奈久で山頭火」イベントの観光スポットがあります。

▶整備イメージ：ギャラリーなど
参照（大分県豊後高田市昭和ロマン蔵）

ⅲ）その他の整備

ＪＡ倉庫・織屋一帯は、日奈久地域観光の拠点として、駐車場および飲食施設を併設する形で整備を図ります。

活用案としては、「九月は日奈久で山頭火」イベントなどを開催する際のメイン会場や多目的施設として利用することができます。

▶整備イメージ：コンサートホールなど参照（玉名市・高瀬蔵）

◀整備イメージ：物販施設を併設した多目的ホール参照（玉名市・高瀬蔵）

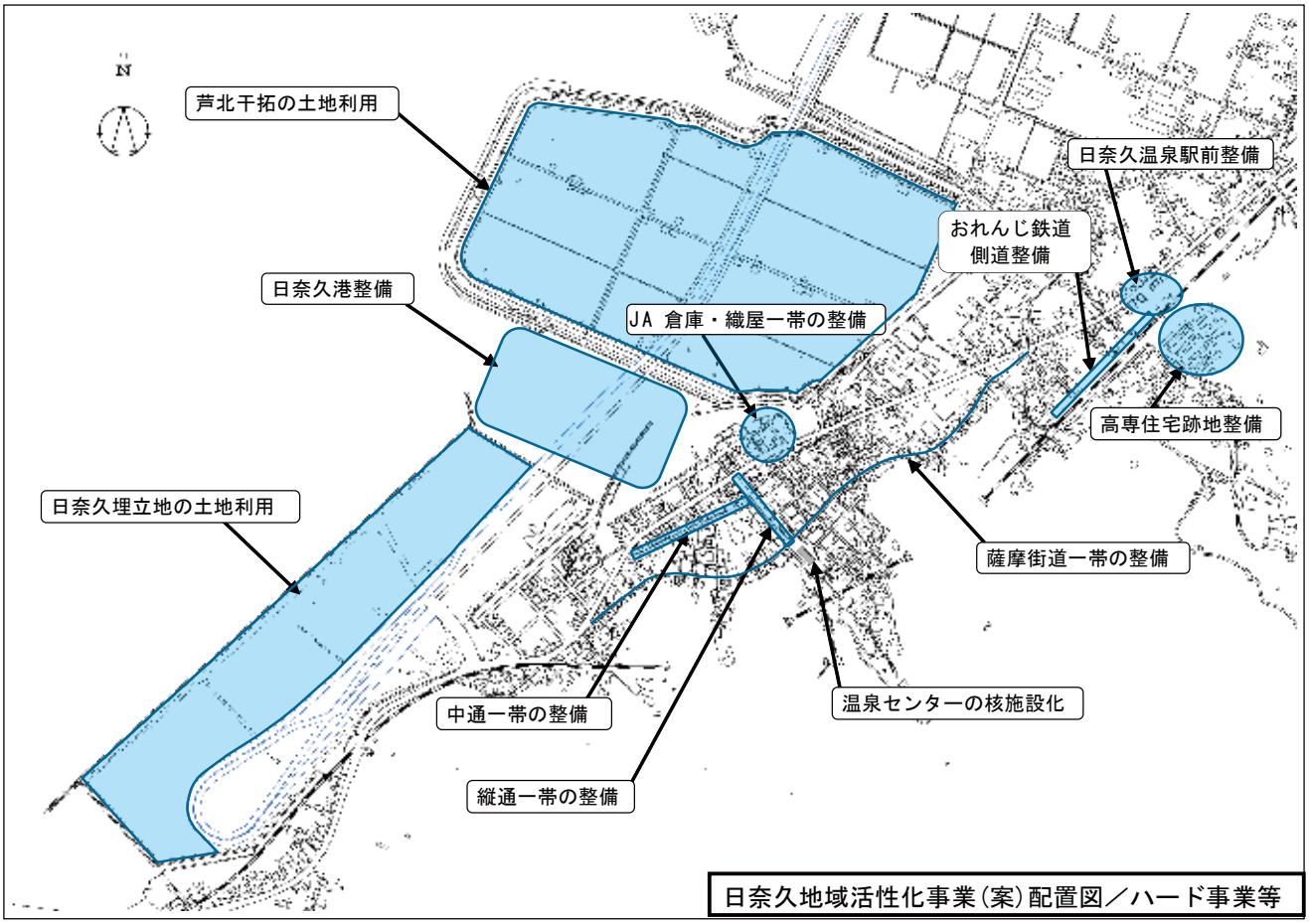
③温泉センターの核施設化（短期）

温泉センターは、日奈久地域観光のシンボルとして、薩摩街道と一体的な修景整備の一つとして、現在の場所に昔の本湯をイメージして建替え、新たに露天風呂等や駐車場の整備を行い活用を図ります。

活用案としては、各旅館と温泉センターがセットで入浴できるようにするなど、連携することで観光客などに対する新たなサービスの提供をすることができます。

▲整備イメージ：昔の本湯を基準にする参照（愛媛県道後温泉）

《ソフト事業》ソフト事業の実施にあたっては、地元住民や地元各団体が一体となって、連携して取組むべきであり、そのためには、まず、日奈久住民がどういう日奈久にしたいという議論を重ね、その結果に基づき、日奈久地域全体で協力しながら、早急に各事業を実



日奈久地域活性化事業（案）配置図／ハード事業等

施していく必要があります。

なお、優先すべき事業として、すぐにでも実施できる事業が多くあることから、「事業主体」と「連携すべき関係団体」が協力し、順次、早急に取り組む必要があります。

①日奈久地域の将来ビジョンの検討（短期）

これまで、ソフト事業が実施されていない理由の一つとして、日奈久地域に住民の共通した理解を得た将来ビジョンがなかったことが挙げられます。そのため、地元住民と地元各団体が日奈久の将来ビジョンなどについて意見交換ができる場として、「まちづくり連絡協議会（仮称）」を、設置する必要があります。また行政もこれを積極的に支援します。

②接遇の改革向上（短期）

i）商業施設のおもてなし

来客者の立場に立ったサービスの徹底を目指して、温泉旅館や観光施設の接遇の向上を目的として、従業員などの接遇研修の強化を行い、接客に対する意識改革を行う必要があります。

ii）日奈久地域でのおもてなし

八代地域の観光拠点として、来客者を日奈久地域全体でもてなす意識を持ち、またその気持ちを表すために、日奈久総社教を中心とした各団体が連携を強化し、挨拶運動、花いっぱい運動、クリーン作戦などを実施していく必要があります。

▲平成16年度八代観光協会主催の接遇研修会

③イベント事業計画（短期）

現在、日奈久地域で実施されている「九月は日奈久で山頭火」、「十五夜綱引き」などのイベントの更なる内容の充実や新たなイベントの企画立案を行い、地域住民が一体となって取組み、さらに来客者も参加出来るようなイベントを実施する必要があります。

▲第２回割り勘コンサートの模様
平成18年２月18日：金波楼

《その他事業》

①日奈久埋立地の土地利用（短期）

日奈久埋立地の土地利用については、イベントやスポーツに活用できる広場の整備など、一日中遊べる場所が欲しいという市民の声があります。一方、埋立地は企業誘致や住居用地の確保を目的に造成された経緯もあります。

いずれにしても、埋立地は日奈久地域の活性化に資する目的に活用されなければなりません。市が直接、何らかの施設整備を行う場合、土地の所有者である八代市土地開発公社から土地を購入し整備することになり、現在の市の財政状況では厳しいという課題があります。

このようなことから、十分に議論された住民の総意のもと決定された日奈久地域の将来像を踏まえた企業の誘致や施設整備を行い活用を図ります。

◎甦れ、湯のまち日奈久！

本委員会が、日奈久地域の活性化を検討する過程において大きな疑問となったのが、「日奈久地域の住民は自分達の街を将来どうしたいのか」ということでした。

このようなことから、本報告書は、日奈久の住民が自分達の街の将来を検討する上での叩き台として活用いただけるよう、つまり日奈久のまちづくりの羅針盤として活用いただけるようにまとめたものです。

日奈久地域の活性化は、住民が自ら考え、お互いに協力し活動していくことが大前提であり、活性化の第一歩であると考えます。この前提条件が実行されない限り、行政が事業主体となりハード事業を実施しても、日奈久の活性化に繋がるものではないと考えます。

本報告書の詳しい内容については、市のホームページに公開しています。また本報告書が必要な人には無料で配布します。

問合せ　企画調整課☎334104
日奈久出張所☎380614